

展示会出展や海外視察 見えてきた課題に挑む

家業である茶製造を引き継ぎ、美味しいお茶を作るために農林水産省の試験場である金谷茶業研究拠点（静岡）で2年間学びました。茶価が低迷する厳しい状況で、昨年度、「錦江町特産品ブランドデザイン事業」を受講し、生産者自らが栽培から製茶までのこだわりや美味しさを伝えていくことの大切さを学びました。その学びを踏まえ、今年度は、商工会や県、町の事業を活用して、こだわりの生産方法を消費者に伝えるリーフレットやパッケージデザインの制作、展示会への出展、台湾の市場調査などに取り組みました。

特に商工会の小規模事業者持続化補助金については、経営指導員の方に非常に熱心な指導をいただきました。リニューアルしたパッケージで展示会に出展した結果、商談も成立して新たな販路を開拓することができました。また、昨年の米国視察や米国の茶商との意見交換を通じて、海外への販路開拓について

はクリアすべき課題や可能性も見えてきたことから、これからさまざまな事業を活用しながら、国内外への販路開拓に取り組んでいきたいと考えています。



昨年10月8日から3日間、福岡国際センターで開催された「Food Expo Kyusyu2019」の商談会に参加した今隈さん。2日目の個別商談で大分県の企業と商談が成立し、今春から出荷をスタート。出展者同士の情報交換も貴重な経験になったと振り返ります。

Food Expo Kyusyu 2019
2019.10.8-10 福岡国際センター



豊かな錦江町を引き継ぐために 次世代につなぐ **産業創出**

地域の活性化を図り、次の若い世代に魅力的な産業をいかに創出できるか——。町では、商工会と連携して産業振興に取り組む生産者や事業者を応援する取り組みを進めています。セミナーや経営塾、各事業を活用してまちの未来を見据え挑戦する人たちの取り組みをお伝えします。

農業経営塾を通じて 未来の先進農業を描く

鹿屋農業高校を卒業し、今年で就農4年目の22歳です。田代地区の農業を活性化させることが夢で、高齢者が耕作できなくなった農地を借り受けて、米やブロッコリー、里芋など約10ヘクタールを1人で耕作しています。経営規模を拡大して収益を上げていくためにどうすればいいか勉強したいと思い、農業経営塾を受講しました。

先進的な取り組みをしている優れた経営者の話を聞くことができ、経営理念や将来的な事業計画、生産コスト管理の重要性を実感しました。また、塾のワークショップなどを通じて、町内の農業者と出会い、交流が図れたことも収穫のひとつです。今後さまざまな情報を取り入れ、儲かる農業を実践していきたいと思えます。特に田代地区は面積の小さな農地が多い。農地の集約化、作業の効率化を進めながら、錦江町の農業を盛り上げていきたいです。

interview



鹿屋農業高校卒業後に田代地区で就農。水稲やブロッコリー、里芋など露地野菜を中心に生産している。農地の集約、機械化による作業効率化を図り儲かる農業を目指す。

柿迫農園 農園主 柿迫 光樹 さん

先進農業や経営戦略を農業経営塾で学ぶ

令和元年度は町内専業農家10名が入塾しました。12月から3月にかけて全5回の体系的なカリキュラムで経営理念やマーケティング、ビジネスモデルの創出などを受講。他県の先進農家がゲスト講師として登壇する講義もあり、最終回は各自計画を発表。個別経営相談もあり参加費は無料で実施。



農業経営塾 **KAKIZAKO TERUKI**

小規模事業者持続化事業補助金を活用

小規模事業者持続化事業補助金を活用して制作した商品パッケージ。100gのリーフ茶用とティーバッグ用の計3種類。



商談会やイベント販売などで商品PRに活用するリーフレットも制作。鹿児島島の気候や地質、栽培方法のこだわりまで伝わる仕上がり。



interview

農林水産省の試験場で学び、日本手もみ製茶技術資格を取得。独自の肥料設計で魚粕や油粕など配合した発酵ぼかし肥料を使い、お茶がのびのび育つ環境づくりを心がける。有機栽培にも取り組み、オーガニックの緑茶や紅茶、烏龍茶づくりも始める。



(株)今隈製茶 代表取締役 今隈 幸洋 さん